

家族の大切さ

佐藤 杏奈

十月二十三日、午後五時五十六分ごろ

ドーン

という大きな音がして、パツと電気が消え

どらどらどら

と大きくゆれました。まどが「ガッピン」と

割れました。私は、食器棚の下じきになりま

した。お母さんに

杏奈、どこにいる？大丈夫？

と言われたのでゆかをはいてお母さんの所へ

行って

ここにいますよ。大丈夫だよ。

と返しました。

お父さんはガスも止め、台所に行きました。

ゆれがおさまって来たので、下に降りまし

た。お父さんの携帯電話の光で玄関に行っ

て、くつを探しました。

「何でもいいから早く出てこい。」

と言われたので、サツとはいってお父さんの携
帯でお母さんの足もとを照らしてあげました。
外に出で家族一緒がたまりました。すごく
寒かったのです。お父さんがほかの所へ行つて
地区の人がどこに集まっているか見に行こう
としたとき、また大きい水がきました。動
いて行こうとするので少し様子を見
てからちよつとおの動いていきました。それ
で、

早く行こう。

とお父さんが言ったので、小走りでお父さんの
集まっている所に向かいました。
しおりさんの家の近くにみんなが集まっ
ていました。しやがんでいたらまた水きました。
転がりそうになったけれど、もちこたえまし
た。

消防車がきて

田麦山小学校グラウンドに集まってくださ
い。

と言われたので、ゆっくり向いました。途中

こけそうになつたので、周りに注意して行きました。

学校に着いたときには、もうたしさんの人がいました。知っていた人もたくさんいたので「ホッ」としました。

けれど、友だち数人に会っていないので、どうしたのあ「あ」と思つて先生に聞いてみました。

「小高と大谷内、前原の人は、地区ごとに集まっているそうですよ。」

と言われたので、また「ホッ」としました。

あの地震から一年が過ぎました。あの時お父さんが指示してくれれば、安全に避難できなかつたと思います。私は家族の大切さが分かりました。もしまた何かあったら家族で助け合つていきたいと思います。